

平成 31 年 3 月
第 392 号



2/3 足又区「初午」鳥居作り



おもな内容

- ・お雛様 …P2～P3
- ・今年度を振り返って …P4
- ・年賀状展 …P5
- ・山びこどん …P6
- ・米屋作業, 釜中寄贈 …P7



釜戸中学校より寄贈 2/25(月)

防災用 LED ランタン (アルミ缶回収の収益金にて)

丸森に会いに来てください

瀬瀬富久

昨年開催された丸森邸での「ひな祭りフェア」に、我が家にある土雛を飾っていただきました。これは一昨年、母(昨年死亡)が脳梗塞で倒れるまで毎年のように節句(月遅れの4月3日)に、私のお雛様と一緒に飾っていたものでした。それでこれからは、丸森邸にお雛様も飾っていただこうと思い、入っている木箱を開けて見ましたが、思っていた以上に傷んでいました。屋根の庇(ひさし)は折れ、ブリキでできた鯉(しゃちほこ)は色が剥がれて錆びていて、屏風は金具が折れてガムテープでつないである状態でした。そして雪洞(ぼんぼり)は破れがあったり、桜橘も色あせていました。

それは、このお雛様が我が家に来てから60回ほど出しては飾り、また片付けるなどを繰り返したために、傷みが激しくなっていたからでした。それで人形供養に出して、お焚き上げしていただこうかとも考えましたがそれも忍びなく思い、母の七七日忌明け後に修繕に出すことにしました。子どもの頃から母に、「このお雛様は富久(昭和31年生)のものや」と言われていました。でも、どうして男子なのにお雛様なのか分からず、あまり関心がありませんでした。それで毎年母が一人で飾って、また片付けるなどしていました。

しかし、昨年の3月に夕方のテレビニュースで、豊田市足助町の雛祭りを特集していたのを偶然に見ました。それによると、その家に生まれた長子に、子どもの男女を問わずお雛様を購入していたそうで、屋根の形の違いで、その家に生まれた子どもが男の子か女の子か分かったとのことでした。鯉などが乗って上に高い屋根が、男の子に作られたお雛様とのことでした。それでやっとこれは、自分のものであることを遅まきながら実感しました。

お雛様は知人の紹介で、名古屋市内にある人形店に持って行きました。店主によると、このお雛様は御殿飾りと言って京阪神地方で一般的だったようで、この地域もその流れを汲んでいたとのことでした。しかし、昭和30年代に入るとぱったりと姿を消したそうです。なぜ廃れていったのかというと、複雑で組み立てにくい作りや収納に不便なことなどが原因だったようですが、一番にはその時代背景があったのではないかとのことです。高度成長経済によりデパートなどが出現し、販売物が画一化されるようになってしまったのが大きな要因で、昭和40年頃になると関東で流行っていた段飾りが全国展開するようになり、それで御殿飾りは今ではほとんど見る機会がなくな

ったそうです。

1月の下旬に出来上がったとの連絡が入り、受け取りに行きました。その組上がったお雛様を見ると、男雛と女雛の位置が逆のように思い店主に尋ねました。そうしたら店主曰く、地域性もあり諸説あるようですがと前置きされ、「御殿飾りとは京都風の飾り方で、もともと日本の風習では左の方が位が高いとされていて左側に男雛となる。しかし、明治の文明開化によって日本も西洋化し、その後に最初の即位式を挙げられた大正天皇は西洋に倣って右に立たれた。それで関東風の段飾りでは右側になる」との話でした。少し歴史とその時代背景を勉強させていただきました。

いつも思うのは、「広報大湫」に連載されている天野さんのお話や、最近では大湫中学備忘録を読んでいると、私がいかに恵まれた時代に生まれ育ったかを思い知ります。母は恵那郡笠置村河合(現恵那市笠置町)に8人の兄弟姉妹の末っ子として生まれ、子どもの頃は実家に連れて行ってもらって、従兄弟らと遊ぶのがとても楽しみでした。汽車に乗って大井駅(現 JR 恵那駅)で降り、飯地行きのバスに乗って栃窪(地名は栃久保)のバス停で降りると遥か眼下に木曾川が流れ、その急斜面にへばり付くような集落は、石積みの棚田と桑畑の間に点在していました。初夏などに行くと蚕が飼われており、その間に寝起きしていましたが、蚕の桑の葉を食む音と、その気味の悪い姿にはいつも閉口していました。

今思えば、とても余裕があるとは言えない母の実家でしたが、末っ子に孫ができたことで祖父母や伯父たちが、苦心して購入してくれたお雛様だと思います。当時、大湫にバスが開通して間もない頃だったようですが、それよりはお雛様の入った木箱を背負い、笠置ダムを許可を得て渡って、深山の急な山道を息せき切って登って神田へ、そして赤坂を下って我が家に届けてくれたものだと思います。それでこのお雛様は、両親や祖父母への感謝の気持ちを抱きながら、その思い出とともに丸森邸に飾っていただければ幸いに存じます。雛人形の由来は、「子どもの身代わりとなり、災厄から守ってくれる」と伝え聞きます。これからは、丸森邸に来館される皆様方の健康と幸せを守っていただきたいと思います。とても小さな御殿飾りのお雛様ですが、丸森邸にぜひ会いに来てください。



今年度を振り返って

足立 貴一

平成 30 年度は、親と子の関係性について多くを考える一年でした。

我が家は数年前から完全に夫婦共働きとなったことに加え、今年度は長女が高校生、二女が中学生、三女が小学生と三者三様の生活スタイルになったことで、家族がそろって過ごす時間が大変少なくなりました。特に思春期を迎え多感な時期を過ごしている娘たちにとって、一番身近にいて欲しいであろう母親と、一緒に食事できるのは月に 3~4 日程度。自分自身も平日は遅くなりがちで子供たちだけで過ごす時間が長くなっています。

「親はなくても子は育つ」という言葉はありますが、なかなか学校に行けなかったり、ゲームやタブレットを手放せなかったりする子供たちの様子を目のあたりにし、親の立ちい振る舞いが子供の成長、特に心の成長と安定に与える影響の大きさを強く感じています。今年度経験した様々な問題を踏まえ、現在は妻と仕事や趣味との付き合い方、子供への接し方等についてあらためて話し合っているところです。

来年度は中学校も統合し、ますます子供達を取り巻く環境が変わってきます。子供達の健やかな成長のために何ができるのか、日々考えながら過ごしていきたいと思います。

第 2 回公民館・丸森運営委員会 2/9 (土)

「公民館・丸森」の運営委員会が開催されました。

最初に公民館と丸森の事業報告と次年度の事業計画（案）の説明があり、異議なく承認されました。その後活発な意見交換がされました。

なかでも、

- ・講師や生徒の高齢化に伴い、自主グループの存続が危ういグループが多い。
- ・現在、町民が気楽にふれあえる場所となっている「おしゃべりサロン」や高齢者のお茶のみ場「リ・アップ『ひよも』」が有志（自主グループ）によって開かれています。物価の高騰や参加者の交通手段の問題が発生して

など、次年度に向けての課題や問題点も明確となる内容となりました。

達筆だネー！ 時間かかってるよネ！

近況がよくわかるなー！

公民館ロビーにて年賀状展

1月22日から2月5日まで公民館ロビーにて「年賀状展」をおこないました。近年、その売り上げ枚数が減っているとのこと。

年賀状の料金が上がったせいもありますが、SNS（ツイッター、ラインなど）を使った年始の挨拶や高齢化により「年賀状仕まい」をする人が増えてきたことも一因のようです。

旧知の間では、「生きている」「頑張っている」証を年賀状のやり取りだけで伝えあっている向きもあります。子どもの成長を写真で伝えたり、家族の動向を親族や知人に伝えたりする役目も果たしています。まだまだ、年賀状も「捨てたものじゃない」ようです。

こんな様々な役割を担った「年賀状」を、のぞき見的（家政婦は見た的）な気持ちもあって、「年賀状展」が企画され、たくさんの方々に見ていただきました。来場ありがとうございました。

公民館ロビーは、町民のギャラリー。今後もいろいろな展示を行う予定です。どうぞお出かけください。



黒豆の豆餅づくり(公民館講座) 2/4(月)



みんなの農園で収穫された黒豆を使い、「豆餅づくり」がふれあいセンターで行われました。

今回は若い女性の参加があり、「伝授する事が出来てうれしい」と、ふるさと先生は大喜びでした。

ほんのり甘くて香ばしい豆餅は、参加された皆さんにも大好評。6日(水)に開催された「リ・アップ『ひよも』」でもこの豆餅が提供され“美味しい”と言う声が聞こえてきました。

伝統の技を継承する「山びこどん」

一会員

「山里の技と心を伝える」を旗じるしとする団体です。故安田福一（大湫住民）さんの竹ぼうきと玉置美代子（大湫在住）さんの背蓑を継承する事や布草履等の物作りを年間行事として活動して居ります。軽くて使いやすい竹ぼうきは、秋の竹伐りに始まり、最も大事な整枝から仕組みと沢山の行程があります。

「良い材料で、形の良いホーキを作って下さい」という福一さんの言葉が頭をよぎります。少なくなってしまった会員ですが、2月11日（祝日）今年度最後となる活動としてのほうき作りに、めいめいがこだわりの1本に挑戦しました。

嬉しい事に若いご夫婦が参加して下さい、とても初めてとは思えぬ見事な出来栄えに私たち旧会員はショックを受けましたが、前途洋洋、後を託せると気持ち明るくなりました。「山びこどん」（まちづくり団体）も10年が過ぎたようです。物作りの会への皆様の参加をお待ち申し上げます。

今回作成した「竹ぼうき」は下記に寄贈されました。

- ・足又公民館、神田公民館 各1本
- ・ふれあいセンター 1本
- ・釜戸小学校 2本

リ・アップ “ひよも” だより

「うたごえ喫茶」で
楽しみませんか…

3月のお茶のみ会のおさそい

日時：3月6日（水曜日）

9：30～11：00頃まで

場所：ふれあいセンター

参加費： 50円

—— お待ちしています

三月の俳句

冬枯の二つの峠町隔つへだ

山口雪子

非も無くて可も無き一日冬銀河

天野辰代

春浅し病む人送る道祖神

蠟梅ろうばいや覚めやらぬ目の六地藏

米屋側面塗装作業 2/21 (木)

「夢づくり交付金事業(ステップアップ)」に採用されて「米屋」の屋根瓦が葺き替えられましたが、切妻造りとなっている側面のトタン(白色)を街並みに相応しい景観にするため、黒色に衣替えされました。この塗装作業は、町民有志の方々によって2月21日(木)に行われました。

参加していただきました皆さん、お疲れ様でした。



釜戸中学校から寄贈 2/25日(月)



アルミ缶収益金で今回は災害時に備え防災用LEDランタンを寄贈していただきました。

地域貢献を掲げる中学生のみなさんは、「夏祭り」「文化祭」に『青少年ボランティア隊』として準備段階から町内行事に積極的に参加し、それぞれの行事を盛り上げてくれました。本当にありがとうございました。

釜戸中学が瑞浪北中学になっても、地元(大湫町)を担う若者の一人として町を活気づけてください。

瑞浪市消防団活動フォトコンテスト作品展

3/26(火)~4/1(月) (大湫公民館ロビーにて)

防火・防災に対する意識向上につなげるためスタートした「消防団活動フォトコンテストの入賞作品展を上記の期間、開催します。ご来場お待ちしております。



あなたも参加しませんか

「モニタリング」調査、って何？

3月23日（土）～12月上旬まで毎月1回

コバルトブルーのオオイヌノフグリの花が咲き始めました。セイヨウタンポポ・馬酔木（アセビ）も花をつけ、いよいよ春到来です。2年目となる大湫町の「モニタリング」が3月23日（土）から始まります。

「モニタリング」とは、「100年の自然の移り変わりをみつめよう」と、環境省が「全国1000ヶ所程度のモニタリングサイトを設置し、生物多様性に関する基礎的な情報の収集を長期にわたって継続して、日本の自然環境の質的・量的な変化を把握」（環境省生物多様性センターHP）する事業です。2003年から始まっています。

「里山には、集落やそれを取り巻く二次林、水田、ため池、草原などの変化に富む環境が形成されています。里山は、持続的な自然資源の利用の場としてだけでなく、多くの生きものを育む場としても注目を浴びています」（日本自然保護協会）。この里山の自然が、急速に変わりつつあります。その変化によって里山の伝統的な営みが崩れ、生き物が急速に変化していることが報告されています。

これが「里モニ1000」です。各地域がそれぞれ5年間、生き物の継続的な調査をします。2018年度から5年間の調査をする地域（サイト）は、岐阜県内で6ヶ所。「大湫町自然保全委員会」（三戸憲和会長）の調査もその一つ。この正式名称は、「中山道大湫宿」。植物相とチョウを観察しています。植物相は木本（樹木）・イネ科・シダ植物などを除く植物を調べます。チョウ類は月2回。植物と同じコースを一定の時間で歩き、見つけたチョウの種類を調べます。

2018年度の調査では、絶滅危惧種のカザグルマ・シラヒゲソウ、ユリ科のクモキリソウが見られる一方、帰化植物のマツバウンラン・アカミタンポポ・セイタカアワダチソウなども見られました。



クモキリソウ

さて、この調査コースの植物は、今後どのように変化していくのでしょうか。皆さんとご一緒に変化を追跡していきたいと思います。

モニタリング調査にはどなたでもご参加いただけます。原則、毎月第4日曜日実施。午前10時に宗昌寺駐車場にご集合いただいた方が参加者です。

2月の丸森だより

2月24日 現在

訪問者	町外		町内		合計	その内 (外国関係)
	大人	幼小中高	大人	幼小中高		
	212	3	100	7	322	0

(団体等)

H30, 4月～	8,997人	573人
オープンから	20,210人	1,018人

- * シーズンオフ、4月以降の下見の方が少しあった。
- * 下旬になり 5, 6 人のグループが見られるようになってきた。

(個人等)

- * 毎日新聞の記事(雛人形)を見て大垣から夫婦、名古屋・犬山から2, 3 度目の方も
- * 自転車・車で17宿スタンプの方が目立つ(2月末で終了のため)
- * 暖かくなり中山道の旅人が目立ち始めた。

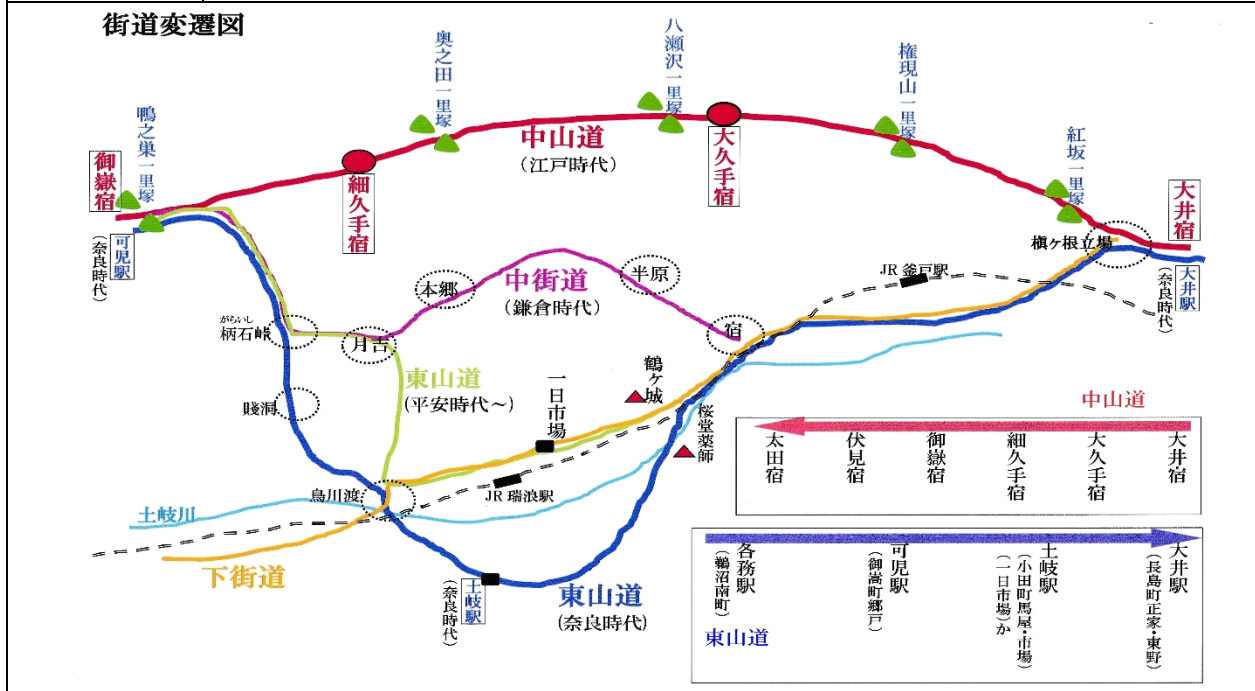
3月の活用事業

* 引き続き「ひな祭りフェア」・・・3月3日～3月10日は甘酒サービス

3月3日(日)に1日限定で抹茶のサービス

大湫宿のよさを知る③「街道」の見方

中仙道と中山道	<p>どちらも正しい。</p> <p>関ヶ原の戦い後、徳川は軍事用道路として、五街道の整備を進めた。 (東海道・中仙道・甲州街道・日光街道・奥州街道)</p> <p>その時、中仙道としてスタートしたが、学者の新井白石の意見で中山道(1716)に変更された。「中仙道は、元々あった東山道を修復したものであり、東へ向かう海辺の道(東海道)に対して、日本の中央を通る山の道であり、山が正しい。」を取り入れ、幕府が道中奉行に指示したとされる。</p>
街道の変遷	<p>東濃地方(瑞浪市)では、昔から東西の日本を結ぶ主要街道として道(街道)が整備されてきた。</p>



* 参考文献は、渡辺俊典先生の「ふるさと大湫百話」及び瑞浪の歴史と市史資料編です。

「どえらい時代」に

なってきた

戦後、資源のない我が国が、世界の経済大国になれたのは、勤勉な労働力があつたからである。ところが少子化が進み、労働力が減少し始めた。こんな時代が到来するとは誰も予想していなかった。世界でも一・二を争う高齢化社会に、頭を抱えているだけでなく次世代のために住みよい国にする責任がある。

世界に先駆けて、AI（人間の知能を持ったロボット）開発に取り組み始めた。

ロボットに仕事を奪われるか、労働力を海外より導入するか、いずれにしても中小企業の多くは危機感を持っている。「国会」では働き方改革について論議されているが、企業にとってロボットの存在を抜きにしては成り

立たなくなってくる。

すでに自動車の組み立てや、次々に開発される電気製品の生産にはロボットが導入されている。これからは家族の一員として、炊事洗濯から老人の世話までやってくれるようになるだろう。

世界には、働く仕事がなく困っている国も多い。難民を受け入れて仕事をつくるのも、先進国の務めかもしれないが、「二者択一」、危険な仕事や汚い作業は、ロボットに任せる事も出来る。高齢者の介護やサービス業等は、温かい血の通った人間の方が望ましいと思う。

間違っても、戦争に使用するのには絶対阻止しなければならぬ。このころ、新聞やテレビ、週刊誌などで、AIについて折々報道されるが、割合話題にならないのはどうしてだろうか。

関係なく生き残れる会社や、導入を

計画している企業も多いと思うが、文化系学部を減らして理工系を増やす大学も多くなっている。

これからは、インターネットを利用する人は生産や消費を拡大し快適な生活を送ることが出来るが、そのシステムに便乗出来ない職すら失う人が続出するだろう。

「一将功成りて万骨枯る」大企業だけが利益を独り占めしない社会を望みたい。

これから十年と生きられないが、電気仕掛けのロボットと共存することになるだろう。しよせん温かい血の通っていない「人造人間」。機械文明は、ともすると人間を不幸にする。「道徳心」を持ったAIを期待するのは夢だろうか。

天野長三郎



しおら H31 3月の集まるう会

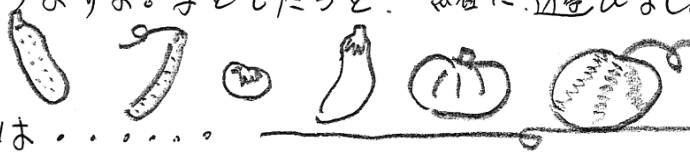
大森町コミュニティ
推進協議会
集まるう会

★ 3月の本数は.....

◦ 練習日 — 3月2日(土)と3月16日(土) 午前9時30分～
午後練習の希望があれば、申し出て下さい。
夜の練習は、(3月) 休みです。

◦ 年間の予定を決めたいと思います。みなさん集まって下さいね。

★ ファミリー菜園が、始まります。夏野菜、サツマイモ、芋づくり野菜が、楽しみです。今のところ、希望する家族が、6名います。まだゆとりがありますよ。子どもたちと一緒に楽しみましょう。



★ "かしわや"からは.....

芋づくり作品を、展示、販売してみたいという方、まだまだ募集しています。3月は、9日(土)と、23日(土)です。こぶしコーヒーの日と一緒に。どうぞお立ち寄り下さい。

民間ワイワイプロジェクト西森川チーム

西森川邸 ボランティア清掃活動報告

今月の2月10日(日)に西森川邸の最終回となる清掃活動を行いました。(今後は活用事業者の方にバトンタッチとなります)今回は軒下の防護柵である**犬矢来**をみんなで作り新調しました! 講師として今年から米屋に住まれる造園家の田村さんにご指導いただきました。是非見て下さい。



犬矢来を設置する参加者

東濃新報記載より



大湫コミ・公民館からのお知らせ

瑞浪市社会福祉大会

瑞浪市長表彰

(高齢者福祉功労者)

渡邊 榮二 氏



青少年育成市民会議

(表彰状)

釜戸中学校ボランティア連合会

*中学生ボランティアとして大湫・釜戸町内の行事の企画・運営や清掃活動やアルミ缶収益を地域や被災地に還元する活動等の地域活動に貢献している。

皆さん、おめでとうございます

ありがとう
ございました



掛け時計の寄贈

ふれあいセンター集会室用の時計を「西区：棚橋雅美氏」が寄贈してくださいました。

*大湫宿お休み処

3月の営業はお休みしています。

*おしゃべりサロン「こぶし」 (100円コーヒー)

3月営業日 第2・第4土曜日

営業時間 AM9:00

～AM11:00

営業場所 ふれあい

センター



デマンド交通

利用者

(大湫～日吉東部)

1月35便 延べ70名

皆さん、もっともっと
利用してくださいね

招待券あります(2名様)

企画展「広重とめぐる皿庶民だって旅がしたい！」

期間：3月31日まで 会場：中山道広重美術館

企画展「友の会作品展」

期間：3月17日まで 会場：瑞浪市陶磁資料館

企画展示コーナー

*詳しくは63-2360まで

青色回転灯防犯パトロール

3月のパトロール予定者



3/月上旬：大竹市エ門

棚橋雅美

3/月下旬：加藤博一

松浦大哲

オススメ！大湫分室の本
『日本のことわざを心に刻む』

岩男忠幸：著

日本に古くから伝わる「ことわざ」を深く味わう本。人との付き合い方、言葉の使い方、お金の使い方など、先人たちの知識や考え方がぎっしり詰まっています。

区長日記

「家の裏で大きなイノシシが死んどる、どうしよう！」
日吉町三和の郷の小栗さんから電話が入った。巨体を横たえたイノシシは、鼻水を垂らして絶命していた。

その後の処置を鈴木経済部長に問い合わせると検査中とのこと、翌日の中日新聞に「瑞浪市でも豚コレラ」の記事が小さく掲載された。その三日後、逃げ切ってほしいと願った地元養豚事業所で、ついに豚コレラ陽性が出た。

町民の皆様には、多大なるご心配をおかけいたしました
が、埋設用地の確保もできており、迅速に事後処理は行われた模様です。

「瑞浪ポーク」という地元産の優良食材を得て、「きなあた瑞浪」の経営の柱としても、地元飲食店の看板メニューとしても確固たる地位を築いてきた瑞浪の特産品。一日も早い防疫体制の確立と経営の再建を願うものです。

三月は、何かと節目の月です。釜戸中学校の閉校をはじめ、今年度の歩みを整理し、新たな出発に向かって準備し

ていく心構えを持って、個人としても地域自治会としても
鋭意取り組んでいきたいと思えます。

区長会長 足立

- 2月3日 市議会議員選挙投票日・足又初午
- 8日 大湫区長会・幹事会
- 9日 公民館運営委員会・転入対策委員会
- 10日 西森 古民家再生塾「犬矢来」
- 11日 山びこどん「竹箒づくり」
- 14日 釜戸中学校閉校式実行委員会
- 15日 オオクテ・ツクルテ実行委員会
- 16日 釜戸中学校最終学習発表会
- 17日 瑞浪市青少年育成市民会議
- 19日 西森 清掃活動・豚コレラ緊急町民説明会
- 20日 瑞浪市「道の駅」検討委員会
- 21日 「米屋」側壁塗装作業整備事業
- 22日 転入者相談会
- 28日 丸森「ガイド研修会」

平成三十一年三月行事予定

日	曜日	予定
一	金	定例区長・幹事会／子ども会
二	土	大湫宿景観協議会
三	日	神田稲荷例大祭
四	月	釜戸中学校卒業式
五	火	財産区全員会議・作業
六	水	リ・アップ「ひよも」
七	木	本陣山登山道整備作業
八	金	資源保全役員会
九	土	おしゃべりサロン／子ども会
十	日	転入対策委員会／山車修繕説明会
十一	月	春季奉仕作業
十二	火	みんなの農園総会
十三	水	夢づくり交付金等事業審査会
十四	木	釜戸中閉校式事前準備
十五	金	釜戸中閉校式
十六	土	釜戸中閉校式
十七	日	雄白稲荷例大祭／古民家再生塾
十八	月	釜戸中閉校式全体リハーサル
十九	火	*春分の日／釜戸中閉校式典
二十	水	おしゃべりサロン
二十一	木	第一回モニタリング調査
二十二	金	大人の社会見学（公民館）
二十三	土	釜戸小学校卒業式
二十四	日	釜戸小学校卒業式
二十五	月	釜戸小学校卒業式
二十六	火	竜吟幼稚園卒園式・小中修了式
二十七	水	広報委員会

今月の資源ごみ:3/20(水)不燃ごみ:3/5(火)

編集後記



残り数日となった釜戸中学校の閉校。大湫・釜戸町に掲げられた横断幕や幟が役目を終えようとする中、みなさんそれぞれに思うところがあるのではないだろうか…。子どもの減少には打つ手も無く「大湫中学校」が統合され、更に「大湫小学校」が惜しまれながらも「釜戸小学校」に吸収合併されました。悲しみに追い打ちをかけるように今度は「釜戸中学校」が統合する運びとなりました。

大湫町にとっては一つどころか三つ目の歴史が終わろうとしています。子ども達は前向きに新たなスタートへと向かっています。そんな子ども達にエールを送りましょう。

「釜戸中学校閉校式・閉校記念の会」が3月21日に開催されます。釜戸中最後の姿を見てください。

編集発行：大湫町コミュニティ推進協議会 広報委員会
 平成31年3月1日 瑞浪市大湫町 422-1 TEL0572(63)2360
<http://okute-shuku.jp/>